

【事務事業調査】

| | | | | |
|-------|---------|--------|-------------|------------------------|
| 事務事業名 | 知識の普及事業 | | 予算科目 コード | 会計 - 款 - 項 - 目 - 事業 |
| | | | | 001-040202-003-06-01-0 |
| 担当部課 | 健康福祉課 | 担当 | 健康づくり担当 | 事業の分類 |
| | | サブリーダー | 田中圭子 | |

事務事業の概要

| | 何をどのような方法で実施します(実施しました)か? | どのような成果が現れます(現れました)か? |
|----|---|--|
| 計画 | 母子への喫煙対策として妊娠届出時、乳幼児健診時でのアンケート実施し、妊婦や乳幼児への受動喫煙の実態把握と分煙の必要性を啓発する。児童生徒には、衛生教育の場においてたばこの健康被害の模型を活用し、禁煙の啓発を行なう。成人に対しては、特定保健指導のポピュレーションアプローチにおいて、喫煙を起因とする動脈硬化や肺がんさらには閉塞性肺疾患(COPD)の怖さを周知するとともに、アルコールによる健康被害と適量の効果を啓発していく。分煙や喫煙マナーの向上をめざす。 | 受動喫煙の怖さを啓発することができ、受動喫煙の防止と分煙を進めることができ、安全な生活環境を整えることができる。喫煙による肺の汚れを模型で知り、健康被害の怖さを知ることができ、早期からの喫煙防止につながる。なかなか禁煙に結びつかないことから、疾病に関連した喫煙の害を知ることが必要である。また、アルコールの適量や休刊日の必要性を知ることができる。広報やアンケートを活用し喫煙の意識を高めマナー向上につながる。 |
| 実績 | 妊娠届出時、乳幼児健診時に、アンケートにて、妊婦や児の両親の喫煙状況の確認を行い、胎児や乳児への影響について説明し、禁煙や分煙を促した。成人に対しては、健康診査後の指導において、喫煙の害について指導し、禁煙や節煙の必要性を周知。特にメタボ予備軍と判定された人々には、リスクが大きくなることとあわせて指導を行った。 | 平成18年度からの比較では、子どもの前で喫煙する率が、4か月児健診で5.3%から3.4%、10か月児健診で7.9%から4.8%へ減少した。禁煙や分煙の意識が出てきたと思われる。成人では、身体の状態に応じて、食事や運動の指導と一緒に適正な喫煙や飲酒について指導されるため、今の生活の中でできることから実行しようという意識がみられた。体重が減少したり、検査値が良くなったことで、達成感とともに、無理なく節煙や飲酒量の調節ができるようになっていった。 |

活動指標

| 指標 | 目標値 | 達成値 | 特記事項 |
|--------|-----|-----|------|
| 成人の喫煙率 | 18% | 16% | |

事業費(計画)

| 細 節 | 金 額 |
|-------|--------|
| 1 消耗品 | 82,000 |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| | 82,000 |

事業費(当初予算)

| 細 節 | 金 額 |
|-------|--------|
| 1 消耗品 | 82,000 |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | |
| | 82,000 |

事業費(実績)

| 細 節 | 金 額 | 特記事項 |
|-------|--------|------|
| 1 消耗品 | 80,850 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| | 80,850 | |

事業経費

| | | 計 画 | 実 績 | 特記事項 |
|-----|----------|--------|--------|------|
| 予 算 | 当初予算額 | | 82,000 | |
| | 補正予算額 | | | |
| | 流用額 | | | |
| | 予算現額 | | 82,000 | |
| 決 算 | 決算額 | | 80,850 | |
| 財 源 | 国庫支出金 | | | |
| | 県支出金 | | | |
| | 地方債 | | | |
| | 受益者負担金 | | | |
| | その他の特定財源 | | | |
| | 計 | 0 | 0 | |
| | 差引(一般財源) | 82,000 | 80,850 | |